

第2回里山フェスティバル 里山シンポジウム」14分科会中 すでに8分科会は開催されました

2005/5/17 11:30
現在 V9.3

完了	分科会no. 名称	テーマ	趣 旨	分科会が開催されました場所・日時・スケジュール等内容	参加委員メンバー
完了	1. 里山と水田 稲作	田んぼが育む生きものと子どもたち	水田 稲作」生物・ビオトープ分科会では、生きもの視点から田んぼを見直し、千葉県の水田農業を環境創造型へ転換していくための方向を検討します。 「生きものを育む田んぼづくり」谷津田にて実践している報告。基調講演では食と農と環境、それを生きもの視点から見直すことにより、「田んぼの生きもの多様性＝曼荼羅」が新たな価値を持った産業としての農業へ結びつくことを中心に講演していただきます。ミニコンサートでは、「農」を音楽と講演により理解を深めていきます。 パネルディスカッションでは、「ふゆみずたんぼ」や「生きもの調査」が千葉県の水田農業を環境創造型へ導くことができるのか、次世代を担う高校生を交えてディスカッションします。このディスカッションは、パネリストと参加者対話型で実施します。	シンポジウム： 日時 4月23日(土) 10:00 開場 10:30～10:40 趣旨説明(千葉県立茂原農業高等学校 農業土木部顧問 渡邊英二) 10:40～11:00 谷津田保全活動「生きもの調査の実践報告(千葉県立茂原農業高等学校 農業土木部) 11:00～12:00 基調講演「ふゆみずたんぼの生きもの曼荼羅」(宮城県立田尻高等学校教諭 岩淵成紀 12:00～13:30 食事交流 13:30～14:30 " 農」を称えるミニコンサート」 と講演(国土交通省北海道局農林水産課開発専門官 田中卓二) 14:30～16:40 パネルディスカッション コーディネーター 岩淵成紀 パネラー 田中卓二 新海秀次(ふゆみずたんぼ実践農家) 岡部弘安(地元有機栽培実践農家) 茂原農業高校 農業土木部生徒代表	代表 渡邊 英二 副代表： 記録： 委員会 茂原高校生 生協グループ、生産者グループ(緑耕舎、地元生産者G)、田崎 愛知郎、荒尾 稔
完了	2. 里山と生物・ビオトープ	谷津田・里山における生物多様性の体験	昨年、人が適度に手を加えること(稲作や山の手入れなど)によって、生物多様性が維持されている「里山の自然」をデータをあげて学術的に評価した。今回はNPOによって維持管理されていて、いきもの宝庫である千葉市緑区下大和田谷津田・里山にでかけ、観察会や生き物調査をすることによって生物多様性を体験する。また、谷津田・里山が子どもたちにとって安全で楽しく遊べる場であることを、実際に活動している子どもたちが考えた遊びを通して体験する。	野外体験： 日時：5月1日(日)10:00～16:00 10:00～12:00:田んぼと里山観察会と生きもの調査実践 13:00～16:00:子どもたち企画による谷津田・里山遊び	代表:田中正彦 副代表:網代春男 記録係:高山 邦明 実行委員:平沼 勝男,高山 翔,高山 瑞紀,江澤 千春,越川 重治,南川 忠男
完了	3. 里山と教育・学習	里やまは人づくりの場	我が国の風土の中で培われた自然観は、森林、自然を畏れ、敬い、親しみ、その恵みに感謝する中から「心」を創り、育ててきました。ところが近年は物が豊かになり、加えて社会構造の急激な変化は環境を悪化させ、犯罪の増加なかでも少年の犯罪が凶悪化するなど、人心の荒廃が目立ちます。教育の根本は、豊かな感性即ち心を育てることです。里山は、古来から森林文化の機能と人間との関わりで今日に引き継がれ、私たちの心の故郷でもあり、癒しの場、学びの場、生きる力を蘇らせる場でもあります。今回は「里やま」を巡る観察会で自然の恵みを享受し、更にシンポジウムを開催してこれからの教育の在り方を根底から模索したいと考えます	自然体験： 里山散策、野草試食と講演会 4月29日(緑の日)千葉県市立みつわ台北小学校 9:30～12:00観察会、12:00～13:00野草試食、13:00～14:00講演会 千葉市若葉区みつわ台周辺の「里やま」を歩き、小学校家庭科教室で野草を調理して試食(講師:千葉県森林研究センター次長小平哲夫氏) 自然体験「阿でらう自然の不思議」とシンポジウム： 5月7日(土)10:00～16:30まで、千葉県立中央博物館生態園と講堂(200人)午前中生態園で自然体験、午後シンポジウム:(テーマ、自然体験はオマケじゃない)挨拶、里山と環境大概幸一郎(前千葉県副知事、里山シンポジウムの意義中村俊彦(千葉県立中央博物館副館長)基調講演 筒井 迪夫(東京大学名誉教授)パネリスト 亀井 尊(千葉経済大学付属高等学校教諭)中村くに子(社会福祉法人 たいよう保育園園長)浅野 誠(千葉県立精神科医療センター医師)湯上 昇(森林インストラクター)コーディネーター 上善 峰男(森林文化教育研究会事務局長)総司会 鈴木 敦(NPOみどりのネットワーク千葉) 休憩時間に「日本の叙情詩」をオカリナやギター演奏、保育園児の合唱を予定	代表 上善 峰男 副代表 鈴木 敦 記録 岩橋 幹夫 実行委員 鈴木 敦、岩橋 幹夫、亀井 尊、中村 くに子 顧問 山下 宏文、菅井 啓之、鈴木 真
完了	4. 里山と森林・林業	市民の暮らしと森林の未来～森をつくる地域循環型の暮らし～	戦後の国内林業の低迷、森林の荒廃は、家庭での燃料構造の変化や外国産木材の輸入自由化など、社会構造の変化がその大きな原因だと言われています。森林は木材生産のほか空気の浄化、水源の涵養など多面的な機能を持って私たちの暮らしを支えています。私たちの暮らしの変化とパラレルな関係にある森林荒廃の問題を考えると、かつての山武杉の美林を知り、そこでの暮らしを体験した世代から学ぶことは多いはず。現在の森林の状況と重ね合わせて、地域循環の視点から暮らしと森の結びつきを見直します。暮らしを取り巻くテクノロジーの変化やライフスタイルの多様化を踏まえて、新たな森と暮らしの関係、森林・林業の再生を考えます。	自然体験： 日時 2005年4月30日(土)9:30～ 受付開始 東金文化会館エントランスホール 10:00～12:00 森林ウォッチング[小雨決行] 鶉ヶ嶺の森～あしたの森 シンポジウム： 日時 2005年4月30日(土) 会場 東金文化会館2階会議室 12:00～13:00 昼食、交流 各自弁当持参 指定場所で食事 近くにレストラン有り 13:00～16:00 シンポジウム 会場 東金文化会館 2階 第2会議室 パネラー :吉岡 實 山武都市森林組合 組合長 東金市建設部都市整備課 東金市経済環境部農政課東金市経済環境部環境保全課 本間 一夫 :さんむフォレスト コーディネーター 稗田 忠弘 :さんむフォレスト 16:00 終了 その他 :パネル展示 東金市建設部都市整備課 東金市経済環境部環境保全課 東金市経済環境部農政課 ちば環境情報センターさんむフォレスト プレゼント 東金市建設部都市整備課から花の種をプレゼント	代表 稗田 忠弘 副代表 福満 美代子 記録係 小野 鈴子 委員 桐山 正治、大和田 恭、石田 光男、高宮 文夫、今関 貞夫、日暮 岐夫、戸村 寿彦、西塚 健治、鈴木 剛治、野口 英一、本間 一夫、唐笠 敦、鈴木 剛治
完了	5. 里山と竹	里山と竹害について	最近、里山の植生を壊す「竹害」が各地で問題化しています。伐採し適正に管理しなくてはなりません。繁殖力がすさまじく、地下茎で増殖する特性から、常識的な対応では歯がたちません。里山を放竹林や竹害から守るためにはどうしても竹に関する基礎的な知識が必要です。竹分科会では、「竹害」を主たるテーマにして、参加者が竹について何を思い、何を知りたいのか手始めに探りたいと考え、今回は、「竹や笹についての「困りごと相談」を実施します。	シンポジウム： 日時 4月30日(土) 10:00～12:00まで 場所 東金文化会館2階 第二会議室 スケジュール 10:00～10:20 主旨説明 10:20～12:00 竹や笹について「困りごと相談」の実施	代表 :田代 武男 副代表： 記録： 委員 林 正治
完了	6. 里山と食	語ろう! 千葉の食 食べよう! 里山・里海の幸	千葉の里山・里海で育まれた豊かな食材や暮らしの中で生まれ、伝え続けてきた郷土料理について語り、これを次代の子どもたちに伝えて行くためには、いま何が必要かについて語り合う	シンポジウム： 日時 5月14日(土) 会場 鴨川市平塚540 大山千枚田保存会棚田倶楽部 日程 10:30 受付 10:50 オリエンテーション 11:00 大巻き寿司作り 指導 龍崎英子先生 12:00 昼食 大巻き寿司と地元料理 13:00 フォーラ 野遊び(大人)(子ども) 助言者 パネラー 石田三示さん(大山千枚田保存会理事長)菅沼弘夫さん(子どもに学ぶ会代表)遠山 勇さん(幕張プリンス和食料理部長)龍崎 英子さん(伝統料理研究会会長)美濃輪やよいさん(元生活改良普及員)山口 孝さん(公務員) コーディネーター 遠藤 陽子(千葉自然学校理事) 15:15 三時のおやつ 15:40 まとめ、解散	代表 遠藤 陽子 副代表： 記録： 委員：
完了	7. 里山と芸術	谷津田における人と自然とアートの出会い	今回の開催場所となる大藪池谷津田(千葉市緑区)は住宅地に近接しながら谷津田の自然を今に留めています。しかし、この貴重な場所も多くの周辺住民にとって必ずしもなじみのある場所ではありません。そこで、私たちはこの谷津田の魅力を多くの方々知ってもらいたい、理解してもらいたいと考えています。 そのためには、机にかじりついて谷津田を理解するのではなく、本物の谷津田に赴き、その場所性や魅力について参加者自らが意味づけを行う表象活動が重要であると考えました。今回の企画では、この表象活動を促す手段として「芸術」という方策を用います。まず、実際の谷津田の自然の中で、参加者が自然と融和した創作的なワークショップを行なうことで谷津田の魅力を味わうことを目的としています。楽しさと一緒に何らかの「気づき」がある企画にしていきたい。それは同時に、「芸術」を用いて谷津田の魅力を伝えていく今後の活動のきっかけとなることを目指すものです。	野外体験： 日時 5月15日(日)(雨天の場合は5月29日(日)) 場所 千葉市緑区土気大藪池谷津田 9時30分受付開始 10時～11時30分 :山と医療 福祉分科会代表の建築家・グループ2000代表の横田耕明さんによる竹を使ったドームづくりと間伐材を使った机づくり 11時30分～13時 野草をとり、てんぶらをする+昼食 の机を並べ、てんぶら用にコンロと鍋を置く 内容説明 参加者は谷津田を散策して野草を採り、随時てんぶらにして食べる 各参加者が持ってきたお弁当を食べて昼食とする チャリカフェで飲み物を振る舞う(全員分には足りなくてもよい) チャリカフェについて :チャリカフェの周りに活動パネル立てたり、チラシを配ったりする予定。 13時～15時 :ウッディ工房小林氏による竹を使った楽器づくりとそれを使った演奏	代表 :宮村 賢治 副代表 :山下 樹里 記録 :長澤 瑠里 委員 栗原 祐治 高山 斎一郎・川本 幸立 小林 正幸
完了	8. 里山と医療・福祉	谷津田における福祉と新たな相互理解や交流の試み	「森林療法」が注目されています。人は自然に接することにより確かに癒されます。特に長期にわたって人間が関わってきた美しい里山の自然には、人の心を解放し、「人と人」「人と自然」「人と生き物」を結びつける大きな力があります。「人と人」との相互理解を超え、開放された心の中で「人と自然」「人と生き物」との相互理解までも可能にします。そうしたやわらかい関係の中で人は癒されるのだと思います。専門書を読むよりも、実際に里山に行き、感覚を研ぎ澄まして感じる必要があります。きつこい地よい何かを発見できるはず。今回の企画では、大藪池谷津田(千葉市緑区)でのワークショップをおして参加者が時間と空間を共有するなかで、いろいろなものに触発されて身体を動かし、語り合い、「子供」「高齢者」「障害者」「健常者」の枠を取り払い、人や自然との相互理解と交流につながることを期待しています。	野外体験： 日時:5月15日(日)(雨天の場合は5月29日(日)) 場所:千葉市緑区土気大藪池谷津田 9時30分受付開始 10時～11時30分 :里山と医療 福祉分科会代表の建築家・グループ2000代表の横田耕明さんによる竹を使ったドームづくりと間伐材を使った机づくり 11時30分～13時 野草をとり、てんぶらをする+昼食 の机を並べ、てんぶら用にコンロと鍋を置く 内容説明 参加者は谷津田を散策して野草を採り、随時てんぶらにして食べる 各参加者が持ってきたお弁当を食べて昼食とする チャリカフェで飲み物を振る舞う(全員分には足りなくてもよい) チャリカフェについて :チャリカフェの周りに活動パネル立てたり、チラシを配ったりする予定。 13時～15時 :ウッディ工房小林氏による竹を使った楽器づくりとそれを使った演奏	代表 横田 耕明 副代表 林 みね子 記録 :宮崎 京子 委員 岩井 秀夫